

# コマツ コミュニケーション レポート

## KOMATSU COMMUNICATION REPORT

激動する時代、メーカーはどのようにこの変化に挑み、取り組んでいるのか。コマツの製品をお使いのユーザーの方々をレポートしてご紹介いたします。今回はコマツのサーボプレス機を3ヶ国の海外生産工場に導入し、新たな可能性へ挑戦されている、東京都葛飾区の株式会社矢野製作所様にお話を伺いました。



**Vol. 46** 電子機構部品の専門メーカー

### 株式会社 矢野製作所

本社 〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩5丁目21番14号 TEL.03-3697-8371(代)  
 新潟工場 〒957-0232 新潟県北蒲原紫雲寺町真野原外2956-6 TEL.0254-41-3771(代)  
 設立 1962(昭和37)年5月 代表取締役 矢野 四榮 資本金 9,890万円  
 従業員数(矢野グループ) 国内 700名 海外 4,000名

**トッスに聞く。**

『 一 . 経済に強くなるう  
 一 . 管理に強くなるう  
 一 . 約束に強くなるう 』



代表取締役 矢野 四榮 氏

●創業から今日に至るまでの経緯についてお聞かせください。

板金関連の会社に勤めていた父の姿を見て育った私は、その影響もあり、将来はこの世界でやっていきたいと思い、技術系の大学を卒業した後、父と一緒に会社を設立しました。

創業当時は、ブリキのおもちゃといったような金属玩具の製造を行っていました。

その後、玩具が次第にプラスチック製へと移り変わってしまったため、弊社もガラストーブ等、暖房器具の製造を手掛けるようになりました。

しかし、暖房器具は季節物とあって、夏場は忙しいのですが、それ以外は受注数も激減してしまうため、弱電部品の分野へと方向転換したのです。

この弱電部品の製造が、現在、弊社の主力製品となりました。

創業当初は、現在の本社所在地に製造工

場もあったのですが、やはり東京都内という土地柄、騒音等の問題が上ってきたため、昭和47年に、私の出身地である新潟県の紫雲寺町に工場を建て、最新機械設備を導入し、操業を開始しました。

その後も新潟に組立工場、関川にメカアッセンブリーの大量受注に應えるべき工場、加治川に組立及びカシメ工場と、お客様のご要望にお応えすべく、国内工場を操業してきました。

近年では、お客様の生産工場の殆どが海外へと進出して行かれたため、弊社もそのお客様に対応すべく、平成元年、マレーシアに海外生産工場を設立したのを皮切りに、シンガポール、タイ、そして昨年には中国へと製造の海外拠点を拡げてまいりました。

現在では、弊社の生産の殆どをこれらの海外生産工場で行っております。

自由な発想と豊かな創造力を発揮し、卓越した技術力を持つエンジニア集団。工場では徹底した品質管理と原価低減意識を持ち、社員全員が一丸となって仕事に取り組んでいる。さらにメーカーの信頼に応えるための積極的な技術革新も推進している。



ヤノエレクトロニクス・タイランド



ヤノエレクトロニクス・マレーシア

- 御社の手掛けておられる製品の特徴をお聞かせください。

弊社では現在、VHSビデオ、CDチェンジャー、ビデオカメラといった弱電部品の製造をメインに行っていますが、その殆どが単なるプレス加工に留まらず、モールドからアッセンブリーまで自社で行い、メカブロックでおお客様にご提供しています。

各々の部品でなく、メカブロックといった形状でおお客様にご提供することによって、輸送費等のコストメリットや品質といったトータルな面で、他社製品に対して、優位に立つことができます。

弊社では金型の設計から製造、プレス加工、アッセンブリーといった一貫した生産を行っています。金型の製造も国内の二つの工場に加え、マレーシア、タイ、中国といった五ヶ所全ての工場で行っています。



- 様々な種類のメカブロック。メカブロック化することにより、トータルのメリットを出している。

- 生産の殆どを海外工場で行っているとお聞きしましたが。

現在は、製造の主力が海外になってしまったため、日本では営業管理のみを行ない、設計や生産技術はほとんど海外に移転しました。

やはり製造現場がそこにあるからこそ、試作もできるし、何を合理化すれば良いかといったことも現場のある海外だからこそ色々試すことができるのです。

現在では三ヶ国に工場を持つ弊社ですが、そもそも海外進出を行った理由は、お得意様であるメーカーが海外に進出したことにより、輸送費等のコスト削減の要請があったためです。

当初は、土地や建物といった、機械設備以外のものは全て借り物で始めました。

二年程そのような体制で行っていくうちに、次第に海外での要領が分かり、自社工場を建てたのです。

現在、海外工場は全て24時間稼働しています。アッセンブリーも三勤交代の24時間稼働で行っています。

当面仕事は、東南アジアを主流に流れて行くと思います。本当は日本で製造したいのですが、やはりコストが追いつかないというのが現状ですね。

海外で一番苦労したのは、やはり言葉の問題ですね。一般的な会話は問題ないのですが、細かいニュアンスがどうしても伝わらないのです。



ただ、時間を掛けさえすれば、海外でも日本と同等の品質の製品が出来るのです。

例えば、VHSデッキといった製品などは凄く難しいものなのですが、日本から持ち込んだ設備を使い、日本の技術を指導すれば、時間は掛かりますが現地の社員にも出来てしまうのです。

このような事から見ても、今後は、パテンドものでない限り、海外に出ないと日本国内でやって行くには厳しいと思います。



●日本の技術を身に付けた海外の社員達

●この度ご導入されたコマツACサーボプレスH2Fのご感想をお聞かせ下さい。

コマツのサーボプレスには、発売当初から興味を持っていました。

今、現場では素材革新が起こっています。製品を軽くするには、その素材である金属は、薄くて強度の高いものが必要になります。

このような条件を満たす最も適した素材として、ステンレスが挙げられます。

しかし、ステンレスは型持ちが悪く、なかなか形状に馴染まないのです。

そこで、コマツのACサーボプレスH2Fで加工することにしたのですが、やはり自由にスピードを変えられるという点が良いですね。

昔は低速での成形用に、プレスの減速機を自社で製造したこともあったのですが、コマツのACサーボプレスH2Fなら成形スピードも自由に変わりますから、ステンレスなどの素材の加工にも適していると思います。

また、一度ACサーボプレスH2Fで加工した後、その金型をL2M等、他のプレスに移したところ、それまで馴染まなかった加工が上手く行えたりもしました。

さらに、フリーモーションで動かせるサーボプレスは、絞り加工に非常に適していることも実感しました。このような多くのメリットがあるため、私どもではサーボプレスを積極的に採用し、現時点ではH2Fを3台、H1Fを4台導入する予定です。



●マレーシア工場に導入されたACサーボプレスH2F200。今後の活躍が期待される。

●貴社の今後の展開についてお聞かせ下さい。

やはり今一番の問題は、日本に仕事が無いという事ですね。この事は様々な問題に関係して来ます。例えば、今、海外に出ている社員が日本に戻ってきた時、何をすれば良いのかということです。今後の海外支援部隊にすべく社員の教材にする仕事さえ日本に無いのですから、日本に戻って来た技術者は、研究開発要員として現在活躍してもらって居ります。

また、確かに現在は、中国やタイ、マレーシアといった東南アジアの勢いはすごく今後10年位は、これらの海外生産工場での製造は今まで通りの状態が続くかも知れません。

しかし問題は、その10年が経った後、どうすべきかであると思います。

こういった点を見つめて、私どもでは色々と秘策を練っています。

その一つとしては、他社ではプレスでやっていない加工をプレスに置き換えていきたいと考えています。

具体的にいうと、ダイキャストや成型の部品で、こういったものをプレスに置き換えれば確実にもうかりますよ。

このようなことに、どんどん挑戦していくため、今回導入したコマツのACサーボプレスを多いに活用して、プレス加工の様々な可能性を探って行きたいと思っています。

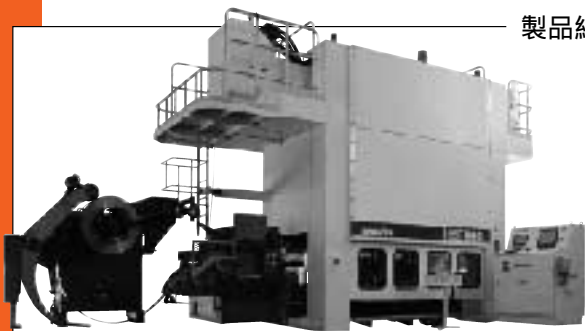


## KTS-Net

コマツとお客様を結ぶ  
ネットコミュニケーション

KTS-Netとは、サーボプレスを活用して革新的なプレス加工を追求されているユーザーの方々の集まりです。皆様の情報受発信の場として、是非ご利用ください。  
また、今後もこの誌面でKTS-Netのお客様をご紹介させていただきます。ご入会をご希望の方は、是非弊社のサイトをお訪問下さい。

### 製品紹介



#### ■主要仕様

機種		H2F200	H2F300
加圧能力	kN (ton)	2000(200)	3000(300)
能力発生位置	mm	6.0	6.0
ストローク数	m in <sup>-1</sup>	~ 88	~ 80
ストローク長さ	mm	30 - 200	30 - 250
ダイハイト	mm	475	550
スライド調整量	mm	100	100
スライド寸法(左右×前後)	mm	1850 x 850	2150 x 900
ホルスタ寸法(左右×前後)	mm	1850 x 950	2150 x 1000
フロントオープニング	mm	1900	2200
サイドオープニング	mm	890	940
メイン(サーボ)モータ	kW	40 x 2基 units	100 x 2基 units
許容上型重量	kg	1500	1500

お問い合わせは

#### KOMATSU

コマツ産機株式会社 鍛圧KBU 企画グループ  
〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7 アーバンネット南大井ビル  
TEL. 03-5561-2692 FAX.03-5561-2877

インターネットアドレス <http://www.komatsusanki.co.jp/kts/>

# H2F

コマツ ハイブリッドACサーボプレス  
KOMATSU HYBRID AC SERVO PRESSES